

For the world peace

所属	愛知県安城市立里町小学校	実践者	服部 郁子 (G)
対象	小学6年生	時間数	35時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<p>ガーナを中心に世界の文化や生活に触れ、世界には豊かな多様性がある一方、貧困、人権、環境などの課題があることを知る。それらを自分にも関係する人類全体の問題であると気づき、仲間と共に解決方法を考えて実践する中で、よりよい未来を築こうとする力を育む。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-3	<p>Meet the world ~多様な世界とこんにちは~ ○世界の国々の名前や世界地図に親しみ、多様性に触れる。 ○自分の当たり前は、世界の当たり前でないことを認識する。 ○多様性を認める社会のよさや豊かさについて考える。</p>	『私たちの地球と未来』 (愛知県国際交流協会)
	4-6	<p>ガーナを知って多様性をもっと考えよう ○ガーナクイズを通して、日本との共通点と相違点を知る。 ○みんな違ってみんないい?それ、本当? ○違っていても幸せじゃないこと</p>	ガーナ研修の画像 ガーナBOX ガーナの食べ物
	7-9	<p>世界と私たちはつながっている ○自分—日本—世界のつながりに気づく。 ○多様性から世界が見える。 ○負の連鎖について考える。</p>	『私たちの地球と未来』 (愛知県国際交流協会) 国際理解実践資料集 (JICA地球ひろば)
	10-12	<p>For the world peace ~世界の平和のために~ ○私たちにできること ○世界で活躍する日本人 ○For the world peace 活動計画</p>	講師派遣 JICA中部青年海外協力隊 ガーナ隊員
	13-16	<p>For the world peace ~今できることをやろう~ ○総合の発表に向けて準備をしよう ○クラスで中間発表会をしよう</p>	
	17-19	<p>For the world peace ~未来に向けて~ ○発表会：発信しよう！私たちの活動 ・総合を通して学んだことを、学校や地域の人たちに知ってもらおう。 ○活動を終えて</p>	児童自作の展示物
○成果	<p>・多様性を肯定的にとらえる活動と、身の回りのものが世界とつながっているという学習を十分行ったことで、外国に対して親近感を持つことができた。その結果、よくない多様性(課題)を、多くの児童が、遠い外国のこととしてとらえるのではなく自分たちにも関係する問題としてとらえ、何とかしたいという気持ちをもつことができた。</p>		
課題	<p>・「平和のために自分たちにできること」を班ごとで取り組ませたため、自分のアイデアが通らなかった児童や、友達に任せてしまう児童を作ることになってしまった。個人であるいは自発的にグループを作らせるなど、自主性に任せるなど、児童がより達成感をもてるように工夫する必要がある。</p>		
備考	<p>・各グループに常時、色マジックとA3の紙を用意し、派生図や対比表などに取り組めるようにした。</p>		

[授業実践の詳細]

1-3 時限目 「Meet the world～多様な世界とこんにちは」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界の国探しゲーム」・・・グループ対抗で3分間でできるだけ多くの国の名前を出したり、教師が出した国を世界地図から探したりする。その後、世界の国々の様々なちょっと不思議な習慣などのクイズをグループで出し合った後、日本を知らない外国人に日本を知ってもらおうクイズを作り発表し合う。
- ② 「わたしの当たり前＝世界の当たり前!？」・・・自分の当たり前と他の人の当たり前を比べてみた後、これだけは譲れないというものを出し合う。その後、自分が大切にしていること／もの／やり方／などをバカにされたり否定されたりしたらどんな気持ちになるか出し合い、派生図を作る。
- ③ 「もし多様性がなかったら」・・・前回の派生図を使って考えた。その後、「自分とは違うものや、違う考え、違う方法があることを認めよう」「それぞれに異なる一人一人を大切にすると、どんなことが起きるかをグループごとの派生図で考え、多様性を認め合い生かし合うことの「よい影響または結果」だと思ふベスト3を選び、他のグループと共有する。どんな人もその人らしく気持ちよく暮らせる社会にするためにできることを、「自分にできること」「仲間とできること」「大人に提案したいこと」に分けて考える。

この時限のねらい

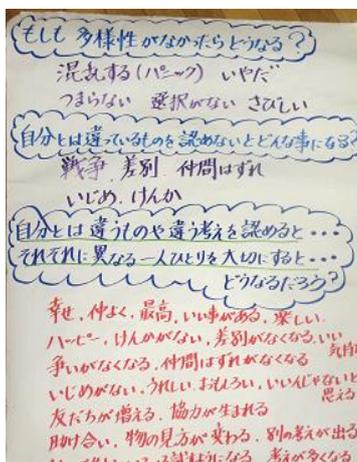
クイズやゲームで、外国の多様性を知る中で、外国の良いところと出会う。また、外国のことを、自分や日本に置き換えて考える中で、違っていること、異なっていることを認め合うことが豊かさを生むことを知り、多様性の大切さを実感する。

2 子どもの活動の成果・反応

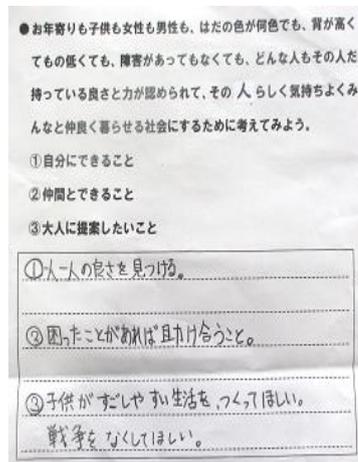
◇子どもたちのほとんどが20以上の国々を知っていたが、場所を見つけることは難しかったようだ。世界のクイズでは、日本とはまるで反対の習慣などにとっても盛り上がっていた。日本を知らない外国人に日本に関するクイズ作りに取り組む中で、改めて日本と向き合うことができていた。また、授業全体を通して、外国と日本の両方を肯定的に見ることができた。

◇自分の大切にしているものをバカにされたらという設定に、「むかつく」、「話をしたくなくなる」など、自分の価値観を否定されることの不快感を感じ取っていた。この気持ちを、国同士に置き換え考えることは、容易であったようで、「日本のことをバカにされたらいやだ。」「よその国のこともバカにしちゃだめだ。」という声があがっていた。

◇前の2時間で、多様性について肯定的に見ることができるようになっていた児童は、多様性を認め合うと、「幸せ」「仲良くなる」「いいことがある」「楽しい」など30以上もの考えを出し、多様性を認め合うことのよさや豊かさを感じ取っていた(成果1)。また、個人個人でも、多様性を認め合う生き方とはどんな事なのかを感じとることができた(成果2)。



成果1: 多様性がなかったら



成果2: できること・提案

3 使用した教材

＜教材1～3＞（公財）愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来活用マニュアル Vol.2 多様性は豊かさ第1回～第3回』

4-6 時限目 「ガーナを知って多様性をもっと考えよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「ガーナの果てまで行ってQ」・・・教師派遣研修で訪れたガーナに関するクイズを解いたり、映像を見たりしながら、ガーナに興味をもつ。多様な面を知ることにより、日本との共通点と相違点をできるだけたくさん見つける。
- ② 「みんな違ってみんないい？それ、本当？」・・・見つけたガーナと日本の相違点の中から、違っていいこととよくないことを各グループで対比表にまとめ、その後、グループ同士で見合い、共感するものに印を入れる。その後クラスで、各グループが共感の印を多くもらったものを発表する。
- ③ 「違っていい幸せじゃないこと」・・・違っていいと思うことを分類する中で、貧困、人権、環境に関するものが多いことを知る。

この時限のねらい

ガーナに関するクイズや映像、またゲームや食の体験を通して、ガーナの多様な社会と文化を知る。多様性の中から、日本との共通点と相違点を見つけ、相違点が格差につながっていることを知り、世界の問題点を考えさせる。



電子黒板を使ったガーナク

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナの学校生活や人々の様子や、食べ物など、自分の生活と照らし合わせて考えられるような題材から取ったクイズを楽しんでいた。海外研修より持ち帰ったゲームや楽器で遊んだり、チョコレートを食べたりするなど実際に体験できるものに、強い関心をもち、特にオワリ（12の皿に木の実を並べて取り合うゲーム）はクラスでも人気があった。頭で物を運ぶことや、男の子も女の子も坊主頭ということには、驚いていたが好意的な反応を示した。文化に関する、偏見をもつ児童はいなかった。一方、衛生面や水や電気に関する不便さに対しては、問題視する児童がほとんどであった。
- ◇ ガーナと日本で、似ているところと違ってるところを対比表にまとめ、相違点の中でも違っていいところに赤シール、良くないところに青シールを貼っていった。その後、青シールの所に注目させ、どうしてよくない違いなのかを考えさせると、水が不足していること、飲み水が安全でないこと、学校に電気がないということは大変だという意見が出た。日本では快適に暮らすためには当たり前だが、ガーナでは保障されていない状態であることを感じていた。前回までの、多様性は豊かさ、みんな違ってみんないいと思っていたことに、ゆさぶりをかけることで、今一度世界の現実に目を向けることができた。「なぜ、ガーナには道路で寝ている人がいるのだろう。」「どうして、ガ

	似ている	違って
人	・やさしい ・明るい ・サッカー好き	・陽気 ・身長 ・肌の色 ・体格が大きい ・ワイルド
食べ物	・魚 ・肉 ・インスタント麺 ・チョコレート ・ぶいしそつ	・動物の肉を食べる ・チョコが甘い ・いもが主食
建物/家	・トタン屋根	・土壁が多い ・でしの木造の家 ・ゼン風機が学校にない ・学校に電気がない
子ども	・サッカー好き ・遊ぶのが好き	・髪が短い ・遊び（オワリゲーム）
教育	・義務教育が無料	・体はつよい ・フスに棒の年令の子 ・子供にむねい
生活	・お茶かい	・動物を飼って遊ぶ ・水道の水茶色 ・水が有料(頂上) ・水が足りない(不足) ・道路で寝ている人

成果3: ガーナと日本の比較

一ナには、違っていてよくないことがあるのだろう。」という質問には、国力が弱いから、力がないからなどと、答えていた児童も、「もしも自分の家のトイレが汚かったら…」などの具体的な質問には、困る、嫌だという感想をもった。こうしたことから、国レベルでは、状況に関して実感がもてなかった児童も、個人レベルで考えると、そうした状況はとても困った状況なのだということが実感できたようであった。

- ◇ 違っていてよくないと思った点を、その原因を考えながら一つ一つ分類していった。「電気がないのは、お金がなくて電気を作る設備が整っていないからだ。」「ごみが町に落ちているのは、環境や衛生の問題だね。」「学校にいけないのは、貧しいからだ。」「体罰は子どもの人権が保証されていないからだ。」など活発に意見がでた。そこから、問題を貧困、環境、人権の3つに分類し、安心して暮らせないという状況が世界に存在することを確認した。



成果4:もしも毎日水くみに行かないといけなかったら

3 使用した教材 <教材4>ガーナの人々の写真

7-9 時限目「世界と私たちはつながっている」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「自分—日本—世界のつながり」・・・自分の回りにあるものが、どこの国で作られているかをグループごとに調べ、発表する。資料を使って、色々なものや出来事を通して世界と日本がつながっていることを知る。
- ② 「多様性から世界が見える」・・・ガーナやその他の国の写真を見たり、資料(インドネシア・ガーナ・クロアチア・チャド・フィリピン・ベリーズ)を読み、日本とつながっている国々が貧困や児童労働、環境破壊、内戦に苦しんでいること知り、そのままにしておいてよいのかどうかを話し合ったり、原因について考えたりする。
- ③ 「貧困の負の連鎖」・・・グループごとに貧困の原因となるカード12枚を、それぞれがどのような因果関係でつながっているのか考えながら、円形に並べる。原因から結果へ矢印を書く。どんな順番になったかを、グループごとに見合い、分かったことや考えたことを発表する中で、負の連鎖になっていることに気づく。どうすれば、負の連鎖から抜け出すことができるのかを話し合う。

この時限のねらい

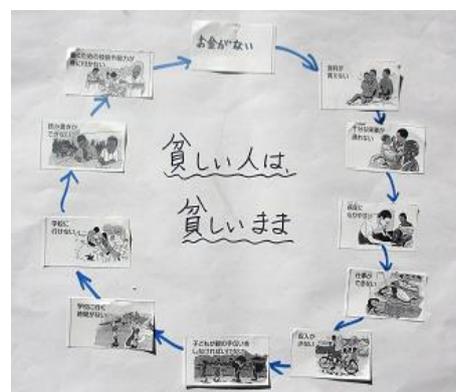
世界と日本のつながりを知り、外国の貧困問題などに自分も関係していることを知る。貧困の負の連鎖を理解し、その悪循環を断ち切ることが、貧困に苦しむ人々を救うことになることに気づく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 普段着ている上着は、クラス児童34名のうち1人だけが日本製で、残りはすべて中国をはじめ外国製だった。また、室内シューズは100パーセント外国製であることに驚いていた。また、消しゴム、黒板などについても調べた。資料からは、ゴマ、ばら、イセエビ、ウナギなども多くがアフリカ諸国から輸入されていることを知り、外国の資源・外国の労働力のおかげで自分たちの生活は成り立っていることを理解した。
- ◇ ガーナの児童労働、チャドの水汲みの様子、森林伐採により絶滅の危機にあるボルネオのオランウータンの話、ベリーズのごみ問題といった資料を読み、グループで原因について話し合った。原因として、貧し

さや戦争や地球温暖化などを原因として挙げていた。クラスの話し合いでは、それを作り出しているのは、人間だということになった。チョコレートの原料であるカカオや、紙の原料となる木材を輸入したり、たくさんの電気を使って二酸化炭素を出したりしている私たちにも原因があるという結論になった。

◇ 貧困とは、「お金がないこと」ということは理解できたが、なぜお金がない状態になるのかを、貧困の因果関係図を作ることによって理解できていた。「学校にいけないから文字が読めない、文字が読めないからちゃんとした仕事につけない」「お金がないから栄養のあるものが食べられなくて、病気になるって働けない」など、各グループによって因果関係図はいくつかのパターンがあった。どれも、円になることから、「貧しい人はずっと貧しいまま」という状況を理解していった。この負の連鎖を断ち切ると、すべて好転し、貧しさを脱却できることを知り、どこかで負の連鎖を断ち切ることが大事だと気づいた。



貧困の負の連鎖 成果例 5

3 使用した教材

<教材5、7> JICA地球ひろば『国際理解教育実践資料集』～世界を知ろう！考えよう！（ワーク①②）

<教材6> (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来活用マニュアル Vol.2 』（世界の SOS に耳を傾けよう！第2回）

10-12 時限目「For the world peace ～世界の平和のために～」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「私たちにできること」・・・『平和とは、争いごとがないだけでなく、人や動物、世界中のあらゆる生物が、「困った」という状態から自由になること』を、踏まえ、自分たちにできることを、直接的なもの、間接的なものに分けて考えたり、調べたりする。貧困の負の連鎖を参考に、どこを断ち切れば、どうなるのかということ踏まえて考える。
- ② 「世界で活躍する日本人」・・・実際に、青年海外協力隊の隊員であった人にゲストティーチャーとして、ガーナについてあるいは隊員としての経験を話してもらい、「どのような動機で海外にボランティアをしようと思ったのか」、「働いてみてどうだったか」、あるいは、「今の気持ちはどうか」などを聞く。話の中から、ガーナやその近隣諸国の現状を知り、自分たちにできることを考えるためのヒントを得る。
- ③ 「For the world peace 活動計画」・・・幸せになれる3ヶ条をグループで話し合い、その目標のために自分たちができることを話し合い、実際に実現するために計画を立てる。

この時限のねらい

世界の国々の課題(貧困、地球温暖化など)を、同じ地球に住む一人として、対等な立場で、自分たちにできることはないかと考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 負の連鎖を考え、どこを断ち切るとどうなるのかを自分たちが作った連鎖を見ながら考えた。直接的なものとしては、募金をする、文房具を送るなどのアイデアを出していた。間接的なものとしては、「学校や地域の人々に、今世界で起こっていることを知らせる」「地球温暖化によって、水没しかかったり、干ばつに苦しんだりする国があることを調べ、異常気象が起きているからあまり二酸化炭素を出さないようにす

るために、節電を呼びかける」「必要以上に遠いところから材料を運ばなくてもいいように、なるべく地産地消してエコを心がける」「食べ物を残さないようにして、ごみを減らす」といったアイデアを出していた。

◇ガーナ隊員として活躍したゲストティーチャーの話に多くの子供が感動した。〈子どものふり返りカード〉

- ・ガーナは思ったよりも都会の所があった。でも、子どもの中には、「お金ちょうだい」という子もいるということとは、貧富の差が激しいのかなと思った。そこが、問題なのではないかと思った。
- ・ガーナの人たちは、水が衛生的でないので買って飲まないといけないなど、生活は大変そうだけど、とても明るい。私たちとは、幸せの基準が違うのかなと思った。
- ・農家に生まれたら、90パーセント位は農家の人にならなくてはいけないと聞いて、自分の職業が決まってしまうなんて悲しいと思いました。私は、自分の将来を自分で決めるのは当たり前だと思っていたので、そのことが幸せなことなのだと、初めて気づきました。ガーナの子どもも、自分で自分の将来が決められるようになったらいいなと思いました。
- ・ぼくの心に残ったのは、何年もお金をためて、40歳くらいになってから専門学校に来た人の話です。ガーナの子たちは親の職業で自分の職業が決まってしまうということだったけど、きっと自分の夢をかなえたいと思ったからがんばったのだなと思いました。
- ・ゲストティーチャーの話を聞いて、ぼくも大きくなったら絶対に外国の人たちのために働きたいと思いました。そのためには、これからは世界のことももっとも勉強していきます。

星っ子タイム
「青年海外協力隊の方のお話を聞こう」

感想を書こう

2組共番を.....

〈思ったこと、考えたこと〉

私は、かがみさんからお話を聞くまでは、ガーナの人々は、どの人も貧しい人ばかりだと思っていましたが、そうではないということが分かりました。お金があるところとないところでは、町の様子、生活の様子もちがうことが分かりました。でも、ガーナの人たちは、明るく、がんばって生きていると思いました。遠い国同士だけど、助け合っていけるといいと思いました。

成果6: 子どもの感想

◇実際に計画を立てる前に、幸せになれる3ヶ条を班ごとに考え、活動の柱とすることにした。

幸せになれる3ヶ条の例

4班 1. みんな笑顔 2. みんな平等 3. みんな仲間

6班 1. 国と国が団結・協力する 2. 一人一人が自分にできることを進んで行う 3. たくさん笑うこと

この3ヶ条に基づき、活動内容、チーム名を決めて、実際に自分たちでできることを計画していった。大きく分けて、3つの活動に取り組むこととなった。1つは、直接的に手助けする活動(募金、寄付、ベルマーク集めなど)。2つ目は、間接的に地球温暖化や森林伐採問題を手助けするために、節電や地産地消を呼びかけるもの。3つ目は、今地球に起きている問題を知ってもらうという啓蒙活動である。それぞれのグループは、なぜこのような活動に至ったのかという説明を加えることと、また、低学年から大人までを対象とした内容を工夫することを柱とした。クラス全体の話し合いでは、「お互いを知り、尊重し、協力しあってよりよく生きることが、笑顔があふれるよりよい社会、世界、そして平和につながる」というまとめとなった。

For the World Peace
活動計画

チーム名 助け合う世界

Save the earth ~地球を救うために~

●目標(幸せになれる3ヶ条)

一 住みやすい環境が整っている(衣食住)
二 友達がいる(仲間)
三 病気が予防できる(健康)

●活動計画

世界の温暖化の影響やアフリカの様子などを知らせる。
自分達にできることを伝える(節水・節電・寄付・ぼんごなど)
↓
自分の生活を見直してもらう。

寄付やぼんごの団体を調べる。
学習した事以外にも世界でどんな状況が起きているのか調べる。(環境や貧困やきなど)

成果7: 幸せになれる3ヶ条と発表計画

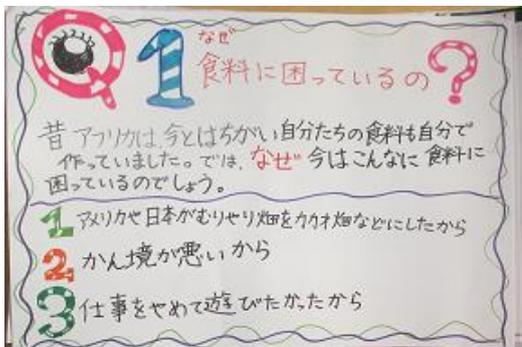
13-16 時限目「For the world peace ～今できることをやろう～」

1 子どもの活動の流れ

- ①「総合の発表に向けて準備しよう」・・・前回立てた計画に沿って、各班で分担を決め活動する。
- ②「クラスで発表しよう」・・・活動してきたことをまとめ、クラスで発表し、分かりにくかったところや良かった点などを発表し合い、学校発表に向けてより良いものにする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前回立てた計画に沿って児童たちは、協力して準備を進めた。発表する場が、全校児童及び保護者や地域の人々ということもあって、幅広い年齢層の人を考えた発表に、また、できるだけ体験したり、参加したりできるような内容に修正しながら、各自分担を決め進めていった。



成果8: 児童が制作した発表用の資料

- ◇ クラスでの発表では、グループごとに発表し、アドバイスをし合った。また、発表内容を再度確認し合い、多様性を認め合い、お互いを尊重することの素晴らしさを訴えるチーム、ガーナを中心とした開発途上国の実態と課題のチーム、よりよく生きていくために私たちが今できることを考えるチームに大きく分かれ、クラスとしてまとまって発表することを確認した。

17-19 時限目「For the world peace ～未来に向けて～」

1 子どもの活動の流れ

- ①「発表会：発信しよう！私たちの活動」・・・総合的な学習を通して学んだこと及び自分たちの提言「お互いを知り、尊重し、協力しあって、よりよく生きることが、笑顔のあふれるよりよい社会、世界、そして平和につながる」を、学校や地域の人たちに知ってもらうために、ポスターセッション方式で伝える。
- ②「活動を終えて」・・・学校及び地域の人々に発信したり、寄付や募金活動をしたりしたことをふり振り返り、もう一度自分たちの提言を確認し、これからの生き方について考える。

この時限のねらい

総合的な学習を通して学んだことを、学校や地域の人たちに知ってもらい、自分たちの提言「お互いを知り、尊重し、協力しあって、よりよく生きることが、笑顔があふれるよりよい社会、世界、そして平和につながる」を伝える。

■ 全体を通して

1 授業の様子



<写真1 ガーナから多様性を考える>



<写真2 派生図を使って考える>



<写真3 調べたことを話し合う>



<写真4 手作りアサラドの実演>



<写真5 発表の様子>



<写真6 寄付を呼びかける>